

港区立いきいきプラザ等の機能強化に向けた検討状況について

区は、港区立いきいきプラザ、港区立児童高齢者交流プラザ及び港区立台場高齢者在宅サービスセンター内のふれあい団らん室（以下「いきいきプラザ等」といいます。）の更なる機能向上に向けた検討を進めるため、本年4月に、学識経験者や地域団体、福祉関係者の外部委員で構成する港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会（以下「検討委員会」といいます。）を設置しました。

検討委員会では、高齢者の生きがいづくりの支援、介護予防と健康づくりの支援並びに区民の相互交流及び自主的活動の促進を一層推進するため、主に6つのテーマに沿った検討を進めています。

検討委員会では、これまでに中間のまとめを作成し、引き続き、最終のまとめに向けて検討しています。

1 検討委員会の概要

(1) 委員構成

別紙のとおり、学識経験者2名、地域団体に属する者4名及び福祉関係者4名の計10名で構成しています。

(2) 開催経過

検討委員会は、年5回の開催を予定し、第1回目に検討テーマを確認した後、別紙のとおり、これまでに計4回開催してきました。

第4回では、別添資料のとおり、中間のまとめを作成しました。

次回（第5回）の検討委員会において、検討テーマに応じた方向性を議論し、最終の取りまとめを予定しています。

2 検討テーマごとの機能強化の方向性に係る主な意見

(1) 検討テーマ1：設置目的の検証

設置目的の3本柱を各指定管理者が作成する事業計画の段階から項目立ての統一を図るとともに、区が事業の実施状況を統一かつ適切に把握・評価し、継続的な改善につなげる仕組みの構築が必要 等

(2) 検討テーマ2：利用状況等の分析

延べ人数による利用者数の把握に加え、利用者属性や利用目的、満足度等を詳細に分析できる仕組みの構築が必要（入館管理システムの導入等） 等

(3) 検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方

新規利用者の利用しづらさの声を減らす取組を推進するとともに、利用したい区民が気持ちよく利用できる環境の整備 等

(4) 検討テーマ4：世代間交流事業の拡充

複合館の特性を活かした世代間交流の推進とともに、単独館においても近隣施設との連携により交流機会を創出し、地域全体での支え合いの仕組みを構築 等

(5) 検討テーマ5：災害発生時等の役割

災害時に実効性のある避難所機能を発揮するため、日常的な利用者への啓発活動と実践的な避難訓練の実施 等

(6) 検討テーマ6：施設配置の考え方

港区の地形特性や人口分布の変化、施設の老朽化状況等を総合的に勘案し、長期的視点に立った配置の考え方の検討が必要 等

3 区の対応

検討委員会が示す課題や機能強化の方向性について、区は、それぞれの内容等を精査し、段階的に対応していく予定です。

4 今後のスケジュール（予定）

令和8年1月22日 令和7年度第5回検討委員会【最終のまとめ（案）】

3月 保健福祉常任委員会に報告

4月 短期的課題等への対応を反映した管理運営の開始
以降、段階的に機能を強化

港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会

1 委員構成

【計10名・敬称略】

	氏 名	肩 書	区分
委 員 長	野呂 千鶴子	国際医療福祉大学大学院 教授	
副委員長	鈴木 宏幸	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所 研究副部長	学識経験者
委 員	太田 則義	チャレンジコミュニティ・クラブ 企画部会長	地域団体
	菅家 厚子	介護予防リーダー	
	杉山 厚子	港区老人クラブ連合会 会長	
	千秋 正子	公益社団法人港区シルバー人材センター 副会長	
	加藤 三奈	社会福祉法人港区社会福祉協議会 地域福祉係長	福祉関係者
	田 中 泉	港区民生委員・児童委員協議会 会長	
	柄堀 賀江	港区立介護予防総合センター 副センター長	
	野口 真美	芝浦港南地区高齢者相談センター 職員	

2 開催経過

回数	日 時	会 場	主な内容
1	令和7年5月22日(木) 15時～17時	区役所9階 914・915会議室	・委員長の互選等 ・検討委員会の設置 ・利用状況等
2	7月24日(木) 15時～17時	神明いきいきプラザ	・利用状況等の分析 ・検討テーマ
3	9月4日(木) 15時～17時	ありすいきいきプラザ	・利用状況等の分析 ・検討テーマ ・中間のまとめ（案）
4	11月17日(月) 15時～17時	青山いきいきプラザ	・中間のまとめ ・検討テーマ
5	(予定) 令和8年1月22日(木) 15時～	神応いきいきプラザ	・最終のまとめ（案）

令和7年12月22日資料No.2-2
保健福祉常任委員会

港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会

中間のまとめ

令和7年（2025年）11月

港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会

港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会 中間のまとめ

目 次

1. 港区立いきいきプラザ等の機能強化検討について.....	1
(1) 港区立いきいきプラザ等の機能強化検討の目的	1
(2) 検討テーマ.....	1
(3) 検討体制	2
(4) 中間のまとめにおける検討状況	2
2. 港区立いきいきプラザ等の概要	3
(1) 港区立いきいきプラザ等の施設概要	3
(2) 港区立いきいきプラザ等の利用状況	4
(3) 個人利用施設（敬老室・浴室）の利用状況.....	5
(4) 事業・プログラム別の利用状況	6
(5) 第三者評価の状況・利用者満足度	7
(6) 災害時における利用・対応状況	8
(7) 施設アクセス・配置の利用面での現状.....	9
3. 港区立いきいきプラザ等の機能強化の考え方（案）	10
(1) 検討テーマ1：設置目的の検証	10
(2) 検討テーマ2：利用状況等の分析	10
(3) 検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方	12
(4) 検討テーマ4：世代間交流事業の拡充.....	13
(5) 検討テーマ5：災害発生時等の役割	14
(6) 検討テーマ6：配置の考え方	15

1. 港区立いきいきプラザ等の機能強化検討について

(1) 港区立いきいきプラザ等の機能強化検討の目的

区の総人口は、港区人口将来予測令和7（2025）年度改定版によると令和32（2050）年には、令和7年度比約137%の約33万6千人まで増加すると推計され、特に老人人口は対令和7（2025）年比で約150%の増加となる見込みであることから、多様化する高齢者ニーズに対応するための環境整備が不可欠です。

港区立いきいきプラザ、港区立児童高齢者交流プラザ及び港区立台場高齢者在宅サービスセンター内のふれあい団らん室（以下「いきいきプラザ等」といいます。）は、こうした高齢者ニーズに直結する施設で、地域の拠点として、更なる機能強化に向けた検討が必要です。

このため、区は、学識経験者や地域団体、福祉関係者等の外部委員で構成する港区立いきいきプラザ等機能強化検討委員会（以下「検討委員会」といいます。）を設置し、高齢者の生きがいづくりの支援、介護予防と健康づくりの支援並びに区民の相互交流及び自主的活動の促進を図るための機能強化について検討を進めました。

(2) 検討テーマ

港区立いきいきプラザ等の機能強化については、以下に示す6つの検討テーマを設定し、検討を行うものとします。

検討テーマ1：設置目的の検証

生きがい、介護予防、コミュニティの事業の実施状況及び成果等の検証を進める仕組みを構築し、施設の設置目的に沿った事業等の機能の強化

検討テーマ2：利用状況等の分析

利用実績等の分析を進め、利用者層や利用状況を把握し、的確な周知につなげ、施設利用や事業運営に反映させていく機能の強化

検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方

敬老室及び浴室は、個人の利用であるため、公共の場として、気持ちよく使ってもらえる運用の考え方を一定程度整理し、より多くの人に利用いただく機能の強化

検討テーマ4：世代間交流事業の拡充

いきいきプラザ等を地域の拠点として、世代間交流事業や健康をキーワードとした健康寿命の延伸等に係る取組（健康増進事業）の強化

検討テーマ5：災害発生時等の役割

いきいきプラザ等は、区民避難所であることを含め、利用者や地域に向けた災害発生時の役割や対応の啓発の機能の強化

検討テーマ6：施設配置の考え方

既存施設の配置状況について、交通アクセスや起伏、他の区有施設との調和を含めた17施設の現状を把握した上で、最適な施設配置の考え方を整理

(3) 検討体制

高齢者人口増を始め、多様化する高齢者ニーズへの対応として、いきいきプラザ等の機能をこれまで以上に発揮し、区民に信頼され、喜ばれる地域拠点に向け、機能強化を検討するための委員会を設置した。

<委員名簿> ○委員長 ○副委員長

学識経験者	○ 野呂 千鶴子 ○ 鈴木 宏幸	国際医療福祉大学大学院 教授 東京都健康長寿医療センター研究所 研究副部長
地域団体	太田 則義 菅家 厚子 杉山 厚子 千秋 正子	チャレンジコミュニティ・クラブ 企画部会長 介護予防リーダー 港区老人クラブ連合会 会長 公益社団法人港区シルバー人材センター 副会長
福祉関係者	加藤 三奈 田 中 泉 柄堀 賀江 野口 真美	社会福祉法人港区社会福祉協議会 地域福祉係長 港区民生委員・児童委員協議会 会長 港区立介護予防総合センター 副センター長 芝浦港南地区高齢者相談センター 職員

(4) 中間のまとめにおける検討状況

検討委員会は、3回の委員会を開催し、検討を実施しました。

中間のまとめでは、設定したテーマのうち、検討テーマ1から検討テーマ4までについて、検討結果を踏まえた今後の基本的な取組の方向を整理しました。

なお、検討委員会は残り2回を予定しており、テーマ5・6については、さらに検討を深めていくこととしています。

<検討委員会の開催状況>

- ・第1回検討委員会 令和7年5月22日(木) 会場：区役所内会議室
- ・第2回検討委員会 令和7年7月24日(木) 会場：神明いきいきプラザ
- ・第3回検討委員会 令和7年9月 4日(木) 会場：ありすいきいきプラザ

2. いきいきプラザ等の概要

(1) いきいきプラザ等の施設概要

いきいきプラザ等は、高齢者の生きがいづくり並びに介護予防及び健康づくりを支援するとともに、区民の相互交流及び自主的活動の促進を図り、もって区民福祉の増進に寄与することを目的としています。

事業内容は、高齢者の生きがいづくりの支援に関する事、介護予防及び健康づくりの支援に関する事、区民の相互交流及び自主的活動の支援に関する事、高齢者の利用に供するため敬老室等を無料で公開すること、プラザ施設の利用に関する事としています。

<施設概要>

	整備年	延べ床面積(m ²)	機能								
			集会室	講習室	ホール	スタジオ	敬老室	浴室	トレーニングルーム	喫茶コーナー	その他
芝	三田	平成 7	1527.65	3	1			1	2		1
	神明	平成 24	6085.36	4			2	1	2	1	1 展示ギャラリー 体育館、リハーサル室
	虎ノ門	平成 18	1261.74					1	1	1	1 多目的室
麻布	南麻布	平成 2	2051.85	3				1	2		
	ありす	平成 26	2138.65	3	1			1	2		1 多目的室
	麻布	令和 6	1047.92		1			1	1		
	西麻布	平成 26	2116.91	3	2			1	2		多目的室
	飯倉	平成 12	646.92	3				1	2		
赤坂	赤坂	昭和 48	848.7	2				1	2		
	青山	昭和 57	2471.33	2	4			1	2		体育館
	青南	昭和 58	654.98	4				1	2		1
高輪	豊岡	昭和 55	1021.24	2				1	2		
	高輪	平成 22	565.54	2				1	1		1
	白金	平成 4	1098.47	4				1	2		
	神応	昭和 42	1545.86	3				1			体育館
	白金台	平成 2	2982.52	5		1		1	2		
港南	港南	平成 13	1254.05					2	2	1	1 多目的室 アクアルーム
	芝浦	平成 19	1928.3								
台場	高齢者在宅サービスセンター (ふれあい団らん室)	平成 8	1466.92						1		

(2) いきいきプラザ等の利用状況

①施設別・地区別利用者数

令和6年度の施設別利用者数は、最も多いあります12万人、最も少ない台場で1万人となっております。

地区別では、多い順に麻布地区、芝地区、高輪地区、芝浦港南地区、赤坂地区となっています。



令和6年度施設別利用者数のデータにより、19施設の利用者数合計と港区の60歳以上人口の推移を比較すると、施設利用者の大部分を高齢者が占めていることが確認できます。

なお、施設利用者数は、コロナ禍で落ち込んだ利用者数は回復傾向にあるものの、全ての地区でコロナ前の水準に達していません。



②現在の利用実績の把握状況

利用実績は延べ人数での把握であり、敬老室、浴室、喫茶コーナー、個人利用だけでなく、いきいきプラザ主催講座や貸室利用の人数も全て含まれるなど、取組・サービス毎の利用者数は把握できていません。

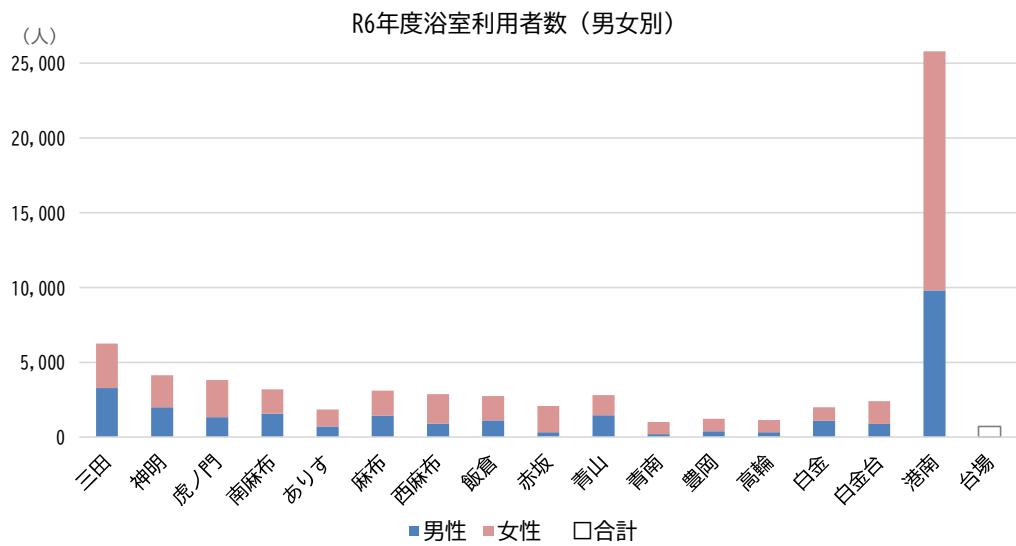
利用者の属性（例：居住地区、年齢層）を把握するためには、利用状況を把握するための入館管理システム等の導入が必要になります。

(3) 個人利用施設（敬老室・浴室）の利用状況

①設置状況

敬老室と浴室の設置状況について、敬老室は、17 施設/19 施設中、浴室：17 施設/19 施設中となっています。

令和6年度の17施設の浴室利用者数合計は、令和4年度比5.3%増加している。施設別の利用者数は、週7日営業しており、1日当たりの営業時間も長い港南が突出して多くなっています。



②敬老室・浴室に関する利用者の声

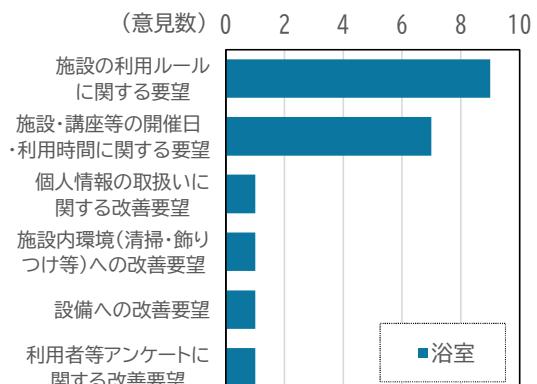
区民の意見（利用者懇談会）では、敬老室・浴室について次のような意見が見られました。敬老室に関する主な意見では、サービス面への要望は少ないが、施設面での改善要望として、敬老室の備え付けされている物品（囲碁等）への充実に対する要望が見られます。

浴室に関する主な意見は、利用ルールや、お風呂が利用できる時間や曜日への要望が多く見られます。

<敬老室に関する主な意見>



<浴室に関する主な意見>

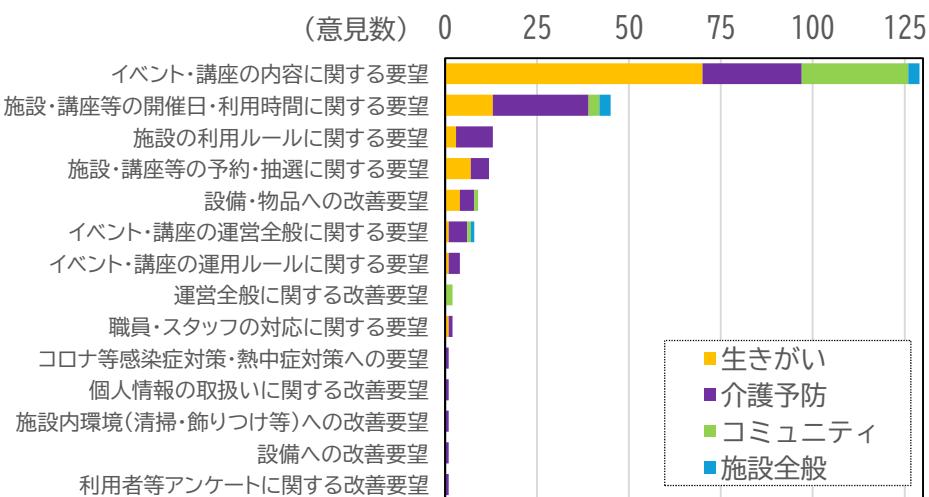


(4) 事業・プログラム別の利用状況

①各サービスへのニーズ傾向

各サービスに関するニーズ（懇談会等）の分析では、イベント・講座の内容については、「生きがい」に関する取組について要望が多くなっている。施設・講座等の開催日・利用時間に関する要望については、「介護予防」に関する取組についての要望が多くなっています。

<各サービスに関するニーズ（懇談会等）>



②世代間交流事業・健康増進事業の実施・利用状況

世代間交流や健康増進事業に関する取組は、各施設での実施数が少ない傾向にあるため、要望については、少ない状況です。

各施設での世代間交流事業、健康増進事業としては、主に次のようなものが実施されています。

<世代間交流事業>

- (主な事業)
- ・ストラックアウト交流会（豊岡）
 - ・かるた交流会（豊岡）
 - ・国際交流イベント（虎ノ門）



<健康増進事業>

- (主な事業)
- ・みんなといきいき体操
 - ・腰痛予防改善教室
 - ・スクエアステップ

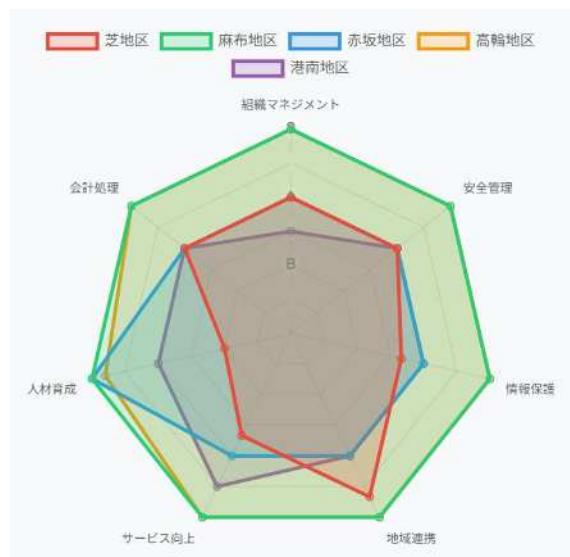


(5) 第三者評価の状況・利用者満足度

①第三者評価の状況

麻布地区では、総体として高く評価されていますが、他地区では、評価のバランスが悪く、改善が求められています。

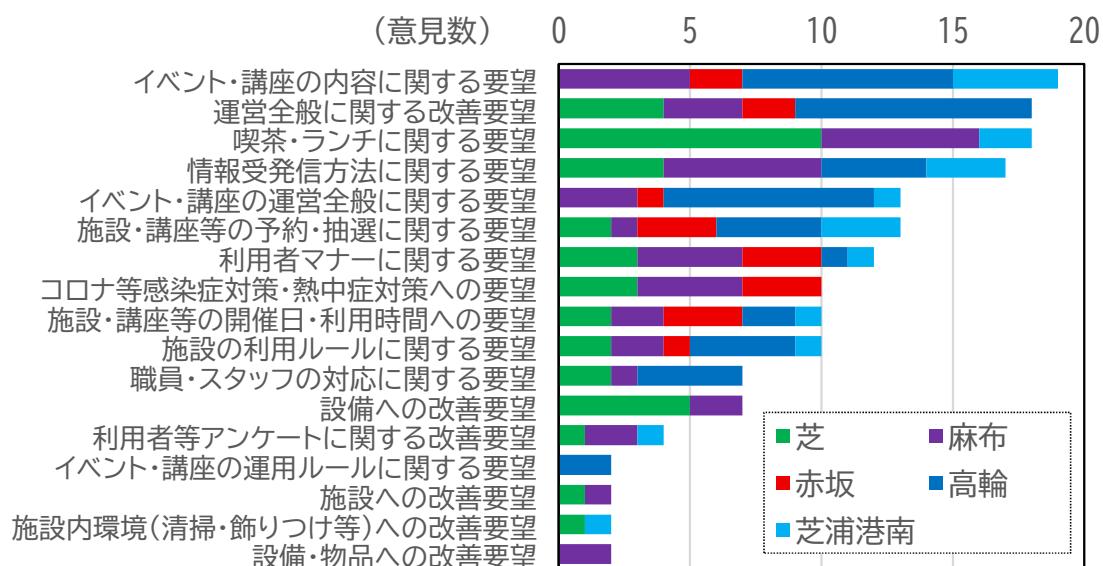
全 17 施設の平均満足度は 92.7% となっており、青南 98% を最高として全施設が 90% 以上となっています。利用者との密接なコミュニケーションと継続的サービス向上により概ね、利用者からの満足度は高くなっています。



②運営に関する利用者意見等

いきいきプラザ等では、利用者懇談会を開催し、利用者からの意見等を聴取しています。運営については、「イベント・講座の内容に関する意見等」が最も多くなっています。そのほか「喫茶・ランチに関する意見等」「情報受発信方法に関する意見等」も多く寄せられています。

<いきいきプラザ利用者懇談会での運営に関する意見等>



(6) 災害時における利用・対応状況

①区民避難所としての指定状況

区では、区民避難所（地域防災拠点）として、区立の小・中学校だけでなく、いきいきプラザや区民センター、子ども中高生プラザなど、57か所の区有施設を指定しています。

全いきいきプラザは区民避難所、台場高齢者在宅サービスセンターは福祉避難所として指定されています。

②災害対応の取組状況

区民避難所（地域防災拠点）に指定されている施設の指定管理は、区と災害時協定を締結し、実施する業務の役割分担を定めています。

指定管理者は、災害発生時、いきいきプラザ等の安全確認や利用者の安全確保に加え、区の災対地区本部からの指揮命令のもと、避難所運営の支援担います。

また、休日、夜間等に大きな災害が発生した場合においては、いきいきプラザ等への参集義務を負います。

そのほかにも、事業計画書には、緊急時・災害時の対応として、以下の点が管理運営計画に位置づけられています。

- ・緊急時対応マニュアルの整備と訓練を定期的に実施し、職員の対応能力向上を図る。
- ・夜間・休日等の緊急対応体制を整備し、警備会社や関係部署と連携して迅速な対応を行う。
- ・災害時には、区や消防署、警察署などの関係機関と連携し、人命の確保と被害の最小化に努める。

③災害時利用に関する区民の声

区民からは以下の要望・意見が出されています。

■施設に関する意見

- ・避難所として使うのに、洋室だと不衛生ではないか。
- ・館内の表示にわかりにくい箇所がある。避難経路についても改めて教えて欲しい。
- ・神応プラザの体育館への動線が非効率的（エレベーターでの昇降）。

■運営に関する意見

- ・避難訓練はその時間にいる人は必ず参加するのか。強制参加が良いのではないか。

(7) 施設アクセス・配置の利用面での現状

①利用圏域

高齢者が徒歩 15 分程度で歩いていける 800m 圏内で、いきいきプラザ等の圏域を描くと概ね区全域をカバーしています。

②配置と利用の関係

港区の地域バランスの取れ、既存施設を効果的に活用できるよう配置されており、港区の地域保健福祉政策の重要な基盤施設として位置づけられています。

<施設分布状況>



3. 港区立いきいきプラザ等の機能強化の考え方（案）

港区立いきいきプラザ等の現状と課題、及び検討会での協議の結果を踏まえ、港区立いきいきプラザ等の機能強化の考え方（案）を次のとおり、整理します。

（1）検討テーマ1：設置目的の検証

■現状と課題

- いきいきプラザ等設置目的の3本柱「生きがい、介護予防・健康づくり、コミュニティ」に関する事業について、各柱を視点とした実績報告がなされていないため、各施設でバランス良く実施されているのかなど、把握が困難である。
- 介護予防事業について、施設間でクオリティに差がないようにカリキュラムの統一を進めるべきであり、事業効果の検証も必要である。
- 指定管理事業者の評価について、地区毎に第三者評価の評価機関が異なるため、港区全域での総体的評価、地区間の相対評価により、港区で各サービスが一定水準で行われているのかがわかりにくい。
- 男性の社会参加促進、熱中症対策（給水器・扇風機設置）、デジタルデバイド対策（パソコン設置と使用支援）等の一層の環境整備が求められている。

■方向性

いきいきプラザ等の設置目的である「高齢者の生きがいづくり並びに介護予防及び健康づくりの支援」「区民の相互交流及び自主的活動の促進」を実現するため、3本柱を事業計画の段階から項目立ての統一を図るとともに、事業実施状況を統一かつ適切に把握・評価し、継続的な改善につなげる仕組みを構築する必要があります。

また、施設間でのサービス格差を解消し、区内全体で一定程度のサービスを提供できる体制の構築を目指したうえで、各いきいきプラザ等の施設特性を効果的に生かしつつ、高齢者特有のニーズに対応した環境整備を推進することで、利用者が安心して利用できる施設運営につなげていく必要があります。

高齢者の拠点として、デジタル活用支援員の配置によるスマートフォン等の操作への支援や熱中症対策の環境の整備など、高齢者の安全・安心を支える施設運営を継続して進めしていく必要があります。

(2) 検討テーマ2：利用状況等の分析

■現状と課題

- コロナ禍による施設の利用制限等により、落ち込んだ利用者数は回復傾向にあるものの、全ての地区で、利用者数などの実績がコロナ禍前の水準に戻っていない。
- 利用実績は延べ人数での把握であり、取組・サービス毎の利用者数は把握できておらず、利用者の属性（居住地区、年齢層）を把握できていない。
- いきいきプラザ等で実施している事業等を知らない区民が多く、新規利用者が少なく、各施設の特色や利用方法が分かりにくく、パンフレット等の情報発信も効果的でない。
- 利用者アンケートの設問が、施設や地区によって異なっており、統一的なデータ収集・分析体制が整備されていない。
- 講座や教室等の定員不足、改修時の代替スペース確保等の運営上の課題もある。

■方向性

コロナ禍による利用者数の減少からの回復を図るとともに、施設の利用状況や利用者ニーズを詳細に把握し、データに基づく効果的な施設運営が求められます。現在の延べ人数による利用者数の把握から、利用者属性や利用目的、満足度等を詳細に利用者状況の分析できる仕組みの構築が必要です。

利用者状況を把握していくうえで、入退館や講座への参加状況などのシステム化を図り、現在の延べ人数による把握から実利用者数の把握へ転換し、利用者の居住地区や年齢層等の属性情報を収集できる入館管理システムの導入等を検討することで、施設の特徴や地域特性に応じたサービス提供につなげていくことが必要です。

利用者アンケートについては、内容を統一すべきところは統一し、継続利用者のみならず不満層の意見も収集できる仕組みを構築して、データに基づく施設運営を推進していく検討が必要です。

また、従来の広報紙や区HPに加え、デジタル回覧板やSNS等の活用、ケアマネジャーや訪問看護師への情報提供など、多角的なアプローチにより施設の認知度向上と新規利用者の掘り起こしを図るなど、いきいきプラザ等の認知度向上と適切な施設選択を支援できるよう検討が必要です。

(3) 検討テーマ3：敬老室、浴室の運用の考え方

■現状と課題

- 敬老室について、麻雀セットの購入、麻雀サロンの開催など、利用に関連して多くの要望がある。
- 浴室について、一部施設では常連の利用者が多く新規利用者が入りにくい雰囲気や、一番風呂の利用をしたい人がいるなど、利用者間での暗黙ルールが存在するほか、一人で浴室を独占する利用者もおり、体調面なども含め安全管理上の懸念がある。
- 浴室の利用者からは、利用マナー指導、利用時間延長等の要望が多くあり、週3・同一曜日の開設について曜日分散や開設日の増加を求める声も多い。
- 浴室は、延べ利用者数は多いが実際の利用者数は不明で、常連ではない人が行きにくさを感じているという声もあり、高齢化による排泄トラブルも新規利用者が入りたがらない要因となっている。職員の見回り体制の強化などが必要である。
- 浴室のみの利用者を他の事業等への参加につなげるような策を考える必要がある。

■方向性

敬老室・浴室は、個人利用が中心となるため、公共施設として公平性と快適性を担保するとともに、コミュニティの形成につながる場となるよう目指していく必要があります。現在、施設で見られる一部の継続利用者による、新規利用者の利用しづらさの声を減らす取組を推進するとともに、設置目的を明示することで、利用したい区民が気持ちよく利用できる環境の整備が求められます。

浴室における体洗い、入浴時間、利用マナー等について、統一的なルールのもと、各施設での掲示や利用ガイドの配布により、すべての利用者が快適に利用できるよう、環境整備の検討が必要です。敬老室・浴室の写真や利用可能時間、予約方法、設備内容等を記載した利用ガイドを作成し、区の広報紙・ホームページへの掲載により、利用者が施設を選択しやすい情報提供を行うことも必要です。

また、利用者の多様なニーズに応えるため、地域特性や施設設備の制約を踏まえ、基本的な運用ルールを全施設で統一しつつ、それぞれの施設の運営体制を検討する必要があります。特に、浴室については、見回り体制などの安全を担保のうえ、柔軟なサービス提供とした利用時間及び時間帯、曜日など、開設日等の設定を行うとともに、浴室利用者を他の事業へと誘導する仕組みを構築することで、いきいきプラザ等の活性化と利用者の社会参加促進を図っていく必要があります。

(4) 検討テーマ4：世代間交流事業の拡充

■現状と課題

- 世代間交流事業の実施は、複合館と単独館では実施状況の差が大きいため、更なる工夫が必要である。
- いきいきプラザ等は、高齢者が行く場所という認識が強く、60代からはまだ早いと感じられており、幅広い年齢層からの利用促進が求められる。また、特に男性は家にこもる傾向もあり、男性が社会参加しやすい事業を増やす必要がある。
- 介護予防事業について、施設により質に差がある場合がある。また、元気塾は実施規模が小さく実施していない施設もあり、実施している施設の参加率も50%未満である。
- 健康長寿アプリ「チャレンジみなと」の普及を加速させ、地域活動に参加しない高齢者をどう引き出すか、個別のアプローチや声かけなどの工夫が必要である。
- 社会福祉協議会が行っている車椅子の貸出し事業（車椅子ステーション）について、いきいきプラザ等の施設規模などにより協力状況に差が生じている。

■方向性

いきいきプラザ等は、高齢者施設としてのイメージが強く、60代からの早期利用促進と多世代交流の活性化を通じて、地域コミュニティの拠点としての機能を強化していく必要があります。複合館の特性を活かした世代間交流の推進とともに、単独館においても近隣施設との連携により交流機会を創出し、地域全体での支え合いの仕組みを構築する必要があります。

世代間交流を効果的に推進するため、区の施策として位置づけ、専門的なコーディネート機能を強化することが重要です。いきいきプラザ等が仲介役としての役割を担い、施設間の連携を図りながら、目的や狙いを明確にした交流プログラムの展開、単発的なイベントにとどまらない恒常的・定期的な交流を通じて、高齢者と子どもが「人」としてつながる関係性の構築を目指します。各施設間での成功事例の共有・見える化を図り、行政の縦割りを解消する明確な窓口機能を整備することで、世代間交流の質的向上と新たな利用者層の獲得を推進します。

具体的には、いきいきプラザ等が、区民避難所であることの周知の拡充を図り、地域や世代間での交流を推進することで、災害時における自助、共助への貢献に期待ができると考えます。

また、男性が参加しやすい事業の推進のため、図書館との連携による学習・運動プログラムの展開や、「男の料理教室」等、拡大を図る取組が必要です。

さらに、港区社会福祉協議会等の関係団体のほか、民生委員・児童委員、老人クラブなどの地域活動団体や高齢者相談センターとの連携を深め、保育園や小学校等の教育機関への積極的な働きかけを含む地域連携を強化し、地域で孤立しがちな高齢者へのアウトリーチ機能を強化し、健康長寿アプリ「チャレンジみなと」の普及などの推進によって、誰もが参加しやすい地域活動の場としての役割を果たしていくことが必要です。

(5) 検討テーマ5：災害発生時等の役割

■現状と課題

- いきいきプラザ等が災害時の拠点として活用されることについて、区民への周知や役割の啓発が十分に行き届いていない。
- 区民避難所として有効にいきいきプラザ等が機能するよう、他の周辺区有施設との機能分担を図ることが必要である。
- 各いきいきプラザ等で実施する防災や災害時等の対応についての区民向けの啓発は、一部の施設では実施されているが、拡充していくことが必要である。

■方向性

いきいきプラザ等の機能の更なる啓発のひとつとして、区民避難所であることの区民・利用者への周知の拡充を図り、地域との交流、世代間での交流を推進し、災害時における自助、共助への貢献に期待ができます。

災害時に実効性のある避難所機能を発揮するため、日常的な利用者への啓発活動と実践的な避難訓練の実施により、災害対応能力の向上を図る必要があります。

また、各施設の収容能力や設備条件を踏まえた役割分担を明確化し、近隣の他区有施設との連携により地域全体でより効果的な災害対応体制を構築していくことも求められます。さらに、高齢者特有の避難支援ニーズなどを踏まえ、より避難所運営環境の向上に努めていく必要があります。

(6) 検討テーマ6：配置の考え方

■現状と課題

<施設配置関連>

- 港区は徒歩15分の「800m圏域」で施設を整備してきたが、徒歩10分の500m圏域で考えると空白地域が生じる。また、六本木など、一部の地域ではいきいきプラザが不足しているという声もある。
- 施設の老朽化が進んでいる建物は、設備や機能を有効に活用できるよう整備を行うべきか検討が必要である。
- 民間施設を借上げなどにより活用することも検討すべきである。
- 高齢者相談センターを中学校区といった生活圏での施設配置の考え方があり、同様に考え方をあらためて見直す余地もある。

<アクセス関連>

- 坂が多い地域等、交通アクセスの改善を求める声がある。
- 高輪いきいきプラザは狭く、高齢者数が多い高輪地区のニーズに応えきれていない。
- 車椅子用の駐車場が少ない施設があり、利用しづらいとの声がある。
- 敷地の広いタワーマンション等の居住者は、施設までの移動に時間がかかり、遠いと感じる場合がある。

<施設設備関連>

- 建物の老朽化や安全上の問題（エレベーター工事不可など）がある。

■方向性

港区の地形特性や人口分布の変化、施設の老朽化状況等を総合的に勘案し、長期的視点に立った配置の考え方を検討する必要があります。国が推奨する500m圏域への対応や坂道の多い地域特性、公共交通網の整備状況を踏まえ、高齢者の利用利便性を踏まえた考え方を含め、整理する必要があります。

また、限られた財源の中で効率的なサービス提供を実現するため、近接する区有施設との機能連携や役割分担を進め、重複する機能を避けながら各地域に必要なサービスを確保するよう調整も必要です。

さらに、各いきいきプラザの立地条件や規模特性を活かした戦略により、利用者が目的に応じて適切な施設を選択できるよう、広報、啓発の拡充と合わせて、施設配置の考え方の検討をしていく必要があります。